

東京都美術館 ニュース

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS



東京都美術館

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

No. 468

start

輝くあの人とartの素敵な出発点

Interview

小西 真奈美

KONISHI Manami



女優として数々のドラマや映画、CMで活躍する一方、歌手活動では自ら作詞作曲し、透明感あふれる歌声で私たちを魅了する、小西真奈美さん。「心が丸くなれる、からだの奥底から満たされる場所が美術館」という小西さんに、アートへの想いなどをうかがいました。

As an actress, KONISHI Manami has performed in numerous TV dramas, movies, and commercials. As a singer who writes her own lyrics and melodies, she has charmed listeners with her crystal clear voice. For KONISHI, an art museum is "a place where my heart grows round and my being is filled to its depths." We asked her thoughts about art.

忙しい日々が続くと 自然に足が向くのも美術館

まとまったお休みができれば国内はもちろん、海外の美術館へ行く計画も立てるほど、私にとって美術館は大切な、かけがえのない場所。オフの日には、どこでどんな展覧会が開催されているのかを調べてその日の行動を決めますし、撮影で地方に行くときも、まず美術館を探し、時間が許す限り訪れるようにしています。

忙しい日々が続くと自然に足が向くのも美術館ですね。特にお目当ての作品がなくても、新たな画家を知ることができたり、からだの奥底から満たされるようなアートとの出会いがあったり。そうして時間を過ぎていくうちに心が丸くなり、表現活動をする上でもアートにインスパイアされているのを感じます。

昔から美術館という場所自体が好きでした。ただ、「なんとなく好き」だけで訪れていたの、みるマナーや作法があるかもしれないと思、アートに明るい友人や先輩に聞いてまわっていた時期があります。結果、多くの方に言われたのが、好きだけで十分だということ。専門的な知識のある・なしは関係なく、「好きと感じるまま、自由に鑑賞すればいい」と背中を押され、アートへの敷居がぐっと低くなりました。

私の人生にとってアートがなくてはならないものだと確信したのは、20代後半、パリにあるマルモッタン・モネ美術館を訪れたときです。クロード・モネの作品が展示されているフロアに足を踏み入れた途端に、何とも言えない感動がわき上がってきました。モネの絵に囲まれた瞬間にふわっと空気が入りこみ、からだの奥底から深呼吸できるような、衝動と静謐の両方が入り混じったような感覚に包まれたのです。本物を目の前にしたあときからモネの絵に強く惹かれ、あらためてアートが好きだと

美術館はからだも心も深呼吸できる場所
心揺さぶられるアートの数々に
インスパイアされています

The art museum—a place where I can breathe deeply in my heart and being





小西真奈美 (こにし・まなみ)
1978年生まれ、女優・歌手。
1998年、つかこうへい演出の『寝盗られ宗介』で舞台デビュー。2002年、映画『阿弥陀堂だより』でブルーリボン賞(新人賞)、日本アカデミー賞(新人俳優賞)受賞。2016年、舞台『KREVAの新しい音楽劇「最高はひとつじゃない2016 SAKURA」』でラップに初挑戦したのをきっかけに歌手活動を開始、2018年メジャーデビュー。現在、自ら作詞作曲したニューシングル「Dear my friend」を配信リリース中。趣味は旅とバレエ。

いう再確認もできました。

画家の人生を知ると 作品のみえ方が違ってくことも

モネをはじめ気になる画家に関しては、「好きだからみる」だけでなく、その生き方まで知りたくて関連本を読むこともあります。彼らの人生、さまざまなエピソードを知ると、それまでみていた作品が違ったみえ方をするようになったり、さらに別の作品にも興味がわいてきたり。また、偶然の出会いから、それまで興味がないと思っていた画家が、急に気になり始めることも。私にとってその代表がフィンセント・ファン・ゴッホでした。

最初に出会ったゴッホの絵は、《ジャガイモ

を食べる人々》という作品。10代の頃でしたが、薄暗い部屋と険しい農民の顔が印象に残り、耳切り事件などのイメージもあったためか、長い間ゴッホに対しても、その作品に対しても、少し怖いイメージをもっていました。それが一転して好きな画家に変わったのは、ニューヨーク近代美術館(MoMA)を訪れ、ゴッホの《星月夜》という作品をみた瞬間からです。何分間も動けなくなるほどの衝撃を受けました。その迫力、タッチの強さ、放たれる繊細な光……。ゴッホに対してもっていた“怖い絵を描く画家”という先入観が消え、帰国後、文献などでゴッホの生涯について調べていくうちに、それまでみていたゴッホの絵が違うみえ方をするようになりました。同時に、他の作品にもどん

どん興味がわいてきました。

こんなふうに、どこでどんな素敵な出会いがあるかわからないので、美術館めぐりはやめられません。倉敷の大原美術館、青森の県立美術館、瀬戸内海に浮かぶ直島の地中美術館にもまた行ってみたい!“コロナが落ち着いたら行きたい美術館リスト”を作っているくらいです(笑)。

タイトルや解説は二の次に 作品そのものをとことん堪能

東京都美術館は、正門入ってすぐに目に入ってくる球体の彫刻にまずときめき、美しくアーティスティックな建物に入ってからワクワクできる、大好きな美術館。コロナ禍で行動が制限される前に、国内で最後に訪れた美術館でもありません。その時は「ハマスホイとデンマーク絵画」展を拝見しました。凛とした空気感が漂っていて、趣があって。黒の使い方が独特で、初めてみるデンマーク絵画に心を奪われたものです。

私がアートを鑑賞するときは、タイトルや解説は後にして、まずアートそのものをじっくりと時間をかけてみます。心ゆくまで堪能した後でタイトルを確認し、再びアートをみて、最後に解説を読むというスタイルが多いです。といっても、あえて何の情報も入れたくないと感じる作品もあるので、そのときは解説を読まず、ときにはタイトルさえも見ず、とことん作品そのものを味わいます。そして、同じ展覧会に何度も足を運ぶことがあります。

ゴッホファンの皆さんと同じく、私も「ゴッホ展」を心待ちにしているひとりです。どんなゴッホと出会えるのか、新たな発見があるのか、とても楽しみです。ゴッホの絵に触発されて、今日はイエローゴールドのドレスを選びました。《ひまわり》や《星月夜》といった、どことなくゴッホの絵を連想していただけたら嬉しいですね。

start

For me, an art museum is the place I naturally head for when life gets too busy. Through contact with art, my heart grows round, and I get inspiration for my own expressive activities. It was seeing a Monet painting in Paris in my late 20s that made me realize how indispensable art is to me. A feeling came over me like being able to breath from the depths of my being, wrapped in a mixture of emotion and tranquility. I have been strongly drawn to Monet ever since and certain of how much I enjoy art. Sometimes, an unexpected encounter will make you suddenly start liking a painter. For me, Van Gogh is representative of this. For a long time, I had a somewhat frightening image of Van Gogh owing to the incident of his severing his ear and the impression made on me by *The Potato Eaters*, the first work of his I saw. The instant I saw *The Starry Night*, however, I felt overwhelmed by its power, strong brushwork, and the delicate light the painting emits. With this, my preconception of him as “an artist who paints frightening pictures” evaporated, and I came to view Van Gogh’s work in a different way from before. You never know when you’ll get this kind of inspiring encounter, which is why I can’t stop going to art museums.

My usual style is to first look well at the artwork before checking the title. Then I view the artwork again and finally read the commentary at the end. I’m looking forward to making new discoveries at “Collecting Van Gogh: Helene Kröller-Müller’s Passion for Vincent’s Art.” It will be interesting to see what kind of Vincent Van Gogh appears this time.



ゴッホ展 ——響きあう魂 ヘレネとフィンセント

Collecting Van Gogh:
Helene Kröller-Müller’s Passion for Vincent’s Art

会期
2021年9月18日(土)～12月12日(日)

特設ウェブサイト
<https://gogh-2021.jp>

展覧会の舞台裏

Creating Exhibitions

20世紀を代表する芸術家、イサム・ノグチの作品が国内外から集結した「イサム・ノグチ 発見の道」。光の彫刻「あかり」150灯のインスタレーションなど、これまでにない“ノグチ空間”の体験型展示も注目を集めました。その展示を手掛けた、株式会社東京スタジオ取締役社長の吉野和彦さんに展示の舞台裏をうかがいました。

“Isamu Noguchi—Ways of Discovery” featured works by one of the 20th century's foremost artists, assembled from Japan and abroad. An exhibition highlight was its realization of “Noguchi space,” such as with an installation of 150 “Akari” light sculptures. We asked YOSHINO Katsuhiko, the president of TOKYO STUDIO CO., LTD. who designed the displays, about the work involved.

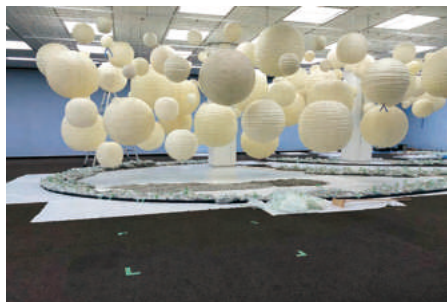
ノグチの作品や考えを深く知る人たちの意を汲み 作品もみる人も回遊式で“ノグチ空間”を堪能できる空間に

Creating a stroll-style viewing route for experiences of “Noguchi space”
by drawing from the thoughts of people closely familiar with Noguchi's works

“聴くこと”から始まる展示空間づくり

ブロンズ彫刻、金属彫刻、光の彫刻など、ノグチの作品が国内外から一堂に会した今回の展覧会。いくつもの素材や様式からなる大小さまざまな作品をどう配置するか、展示空間づくりは試行錯誤を重ねたといいます。

最初に行ったのは、ノグチの作品に造詣が深く、考え方も熟知しているような、ノグチと深く関わった人の話を聴くこと。高松市牟礼町のイサム・ノグチ庭園美術館（ノグチの晩年のアトリエ）に何度も足を運び、現地スタッフ、牟礼で



光の彫刻「あかり」150灯の展示中の様子

Scene of 150 “Akari” light sculpture lamps
Photo: NAKAHARA Atsuyuki (Curator)

の協働制作者だった石匠の和泉正敏氏にも会い、本展の構想を長年練ってきた中原淳行学芸員とも綿密に話し合いを重ねながら準備を進めていきました。「彼らのノグチへの思いはとても深く、その思いをしっかりと受け止め、意を汲み取ったうえでプランを考えました」。ノグチに思い入れがある関係者の意見を知ることは欠かせないポイントだそうです。

自由に作品を堪能できる回遊式

本展では、仕切り(壁)を設けず広々とした空間に作品だけを置く回遊式を中原学芸員より提案され、鑑賞の妨げにならないように、作品タイトル表示はすべて壁側にまとめました。「本展の名前の通り、ノグチは“道”を発見しようと、一つの素材や様式にとどまることなく模索していました。みる方にもこちらが決めた順路ではなく、自由に作品をみてほしかった。そういう意味でも自由動線はおもしろいと思いました」と振り返ります。理想は360度、どこからでも作品を堪能できること。「彫刻は見る位置によって違う表情になるので、好きな角度からみられるように」と作品間隔をあけた結果、新型コロナウイルス感染症



「第3章 石の庭」台座の下に敷き詰められた砂利は牟礼のイサム・ノグチ庭園美術館から運んだもの

Gravel from “The Isamu Noguchi Garden Museum” in Mure spread in “Section 3: Stone Gardens”
©2021 The Isamu Noguchi Foundation and Garden Museum/ARS, NY/JASPAR, Tokyo E3713
Photo: NAKAHARA Atsuyuki (Curator)

大防止対策にもつながりました。

太陽と月をイメージした「あかり」も、他の彫刻と同様、みる角度によって違う表情になる「光の彫刻」です。宙に浮く大小150灯のインスタレーションは「彫刻と空間は一体である」と考えていたノグチ空間そのもの。「まず大きいあかりを吊るし、正面からみたときと横からみたときはどう変わるか、四方八方から確かめつつ小さなあかりを設置し、バランスをみて何度も修正を加えていきました」。深呼吸するようにゆっくりと15分間隔で明滅を繰り返す「あかり」は、光の強さ、明滅の間隔を何パターンも試しながら完成させました。

作品のいつもの姿・様子を届けたい

本展では牟礼で手掛けた石彫群が牟礼の美術館の開館以来、初めて現地以外でまとめて展示されましたが、こだわったのは、「作品がいつもある環境に近づけるようにすること」。最終的には安全性を確保し、どの角度からでもみられるように低い台座の上に作品を置くステージ形式にしつつ、現地の雰囲気、空気感そのものもみる人に届けたいという思いから、台座の下に牟礼のイサム・ノグチ庭園美術館の砂利を敷き詰めることを提案しました。「牟礼のスタッフの方が、『敷地を毎日掃除しても必ず土の中か

ら砂利が出てきてしまう』と話されていたので、ぜひその砂利を敷きたいと願い出たところ、協力してくださったのです」と声を弾ませます。コロナ禍で会期が延期になった一方で準備期間が長くなったこともあり、1年かけて砂利を蓄積。「それをふるってゴミや草などを取り除き、きれいな状態にさせていただきました。総重量は約100kg。現地スタッフの方々の毎日の積み重ねがこの展示につながりました」。現地の砂利とともに設置された石彫をみたときは「牟礼の皆さんの思いも入っているだけに、心打たれました」と感慨ひとしおです。

展示空間づくりで大切にしていることは「自分のこだわりや考えを前面に出さず、みる人が一番喜んでくれる空間づくりをすること」。本展には牟礼からイサム・ノグチの協働制作者だった和泉さんも来場され、牟礼のスタッフも満足のいく様子だったとのこと。「これからも作品を深く知る人の思いが形になるように、“聴くこと”に徹します」と語ってくれました。

In tackling an exhibition of so many wide-ranging works, YOSHINO began by talking to people who were actively involved with Noguchi. He met with staff at The Isamu Noguchi Garden Museum Japan in Mure, Takamatsu and stonemason IZUMI Masatoshi, who became Noguchi's collaborator. YOSHINO also frequently consulted curator NAKAHARA Atsuyuki, who spent years refining the exhibition concept. On this basis, he “contrived a plan that draws from their thinking.”

The exhibition employed a stroll-style viewing route that traced “Noguchi's path of seeking a way, but also enabled viewers to encounter his works freely in their own way.” By leaving spaces open between the works, the exhibition design also contributed to COVID-19 infection prevention measures.

“Akari,” which evokes the light of the sun and moon, is an installation of 150 lamps of varying size suspended in space. The installation is itself a Noguchi space where “sculpture and space form a unity.” The lamps slowly turn on and off.

For this exhibition, stone sculptures created by Noguchi in Mure were displayed outside the Mure museum for the first time since its opening. Even then, YOSHINO's focus was on “the way Noguchi's works always try to assimilate with their environment.” When he proposed spreading gravel from Mure under the sculptures' bases, the Mure staff spent an entire year saving up gravel for the exhibition. He was moved: “I was touched deeply that the thoughts and feelings of the Mure staff were also imbued in the exhibition.”

“Hereafter, I intend to continue giving care to “listening” so as to reflect the thoughts of people deeply familiar with the works.

人と作品、人と人、人と場所をつなぐ

Art Communication

美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、さまざまなアート・コミュニケーション・プログラムを展開しています。

今回は、コロナ禍でも楽しめる! 「Museum Start あいうえの」のリニューアルしたウェブサイトを紹介しします。

The Museum offers art communication programs designed to take visitors beyond simple viewing to a deeper "experience" of the artworks. This time, we look at the renewed and expanded "Museum Start iUeno" website. Enjoy art activities even during the New normal!

「Museum Start あいうえの」のウェブサイト

The "Museum Start iUeno" website

museum start

あいうえの

「Museum Start あいうえの」では2021年4月にウェブサイトをリニューアルしました。上野公園の文化施設の情報を拡充するとともに、これまでのプログラムの様子もまとめて見られ、情報満載! また、FacebookやInstagramとも連動し、幅広い世代に活用してもらえるよう展開しています。

"Museum Start iUeno" has renewed its official website as of April 2021. Besides expanded information on cultural facilities in Ueno Park, it offers a richly informative look at "iUeno" programs. The website is also linked to Facebook and Instagram for easy access by people of all generations.

「Museum Start あいうえの」とは?

What is "Museum Start iUeno"?

上野公園の9つの文化施設が連携して取り組む、子どもと大人が学びあう環境を創造する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」。先生でも親でもない第3の大人「アート・コミュニケータ(とびら)」が一緒に活動すること、も、「あいうえの」の特徴です。

"Museum Start iUeno" is a learning-design project conducted jointly by 9 cultural facilities in Ueno Park. Its aim—to create an environment where children and adults can learn together and from each other. The project's special feature is its "art communicators" ("Tobira"), a third adult, neither teacher nor parent, who joins participants in activities.



おうちでも“ミュージアム”を楽しもう!

Enjoy the museums at home!

「Museum Start あいうえの」では、「すべてのこどもにミュージアム体験を!」をモットーに、年間を通して「観察と鑑賞」をベースにした参加型プログラムを行っています。参加するすべての子どもたちは冒険のツール「ミュージアム・スタート・パック」をもらい、冒険と探究の旅を楽しめます。しかし、コロナ禍で外出もなかなか難しくなってしまった今日、ご自宅や学校でも楽しめるウェブサイトを展開しています。

ウェブサイトには、上野公園の9つの文化施設の基本情報や最新の展覧会情報、プログラム情報をはじめ、ミュージアムを親子で楽しむためのポイントなど、ミュージアム(美術館・博物館)へ楽しく出かけるためのお役立ち情報が盛りだくさん。家でも楽しめるコンテンツ、例えば、子どもたちがミュージアムを訪れて発見したこ



リニューアルしたウェブサイトトップページ

Renewed website and QR code



みんなの冒険ノートのページ
MUSEUM START PACK page

と、面白いなと思ったことが書かれている「みんなの冒険ノート*1」のページ、過去のプログラムの記録動画を掲載した「動画チャンネル」などもウェブサイトで公開しています。

また、今回のリニューアルでは、各館の魅力を伝えるページ「上野公園と9つの文化スポットとびらをひらく—上野公園へ出かけよう!」を新設。このページでは、上野公園と各館の見どころの紹介、オンラインで楽しめるコンテンツ「おうちで楽しむミュージアム」にリンクしています。

例えば、「働くひと インタビュー」。美術館の人って、動物園の人って、どんな仕事しているのかな? 初めてのミュージアム体験は? それぞれの施設で働いているみなさんに、インタビューをしてきました。ご自身の名前の漢字がご縁で、「鳥」の飼育係から飼育員のキャリアがスタートしたエピソードを語る恩賜上野動物園の鳥飼さ

インタビューページ:
恩賜上野動物園
鳥飼さん

Interview page: Ms.
TORIKAI, Ueno
Zoological Gardens



んや、今のお仕事を「職にしよう!」と心に決めるきっかけとなった衝撃のワークショップ体験を紹介してくださった東京国立博物館の藤田さん、ラジオの解体が大好きだった少年時代を振り返り、博物館に関心を持つきっかけを語る国立科学博物館の濱田さんなど、プロフェッショナルた

ちの魅力溢れる素顔に触れることのできるインタビューを公開しています。

2021年度のプログラムの活動ブログも公開中です。ぜひ、チェックしてみてください。

(東京都美術館 学芸員 河野佑美)

The "Museum Start iUeno" website has been renewed. Until now a portal site for Ueno Park cultural facilities, the renewed site offers an abundance of information on the 9 cultural spots including each facility's online contents and interviews with facility staff. The website also has an English version giving a summarized look at "iUeno" along with an outline of its programs. Ueno Park is unique for its many cultural facilities within walking range of each other. In this rich environment, "Museum Start iUeno" is fostering an environment where children and adults can learn on the same level as equals. We invite you to browse its fascinating website and also participate in "iUeno" programs. Enjoy Ueno Park's museums to the fullest!

(KONO Yumi, Associate Curator, Learning and Public Projects)



プログラム案内・申込ページ

Program information and application page

*1「Museum Start あいうえの」のプログラムに参加した子どもにプレゼントしている特製ツール「ミュージアム・スタート・パック」に入っているアイテムの一つ。ミュージアムで観察したことや発見したことなどの記録を書くノート

公募団体・学校教育展

東京都美術館は、年間約270団体の展覧会が開催される「公募展のふるさと」です。美術団体や学校教育機関などが作る新しい作品との出会いの場をさまざまなトピックでご紹介します。

The Tokyo Metropolitan Art Museum is “the home of the public entry exhibition.” Each year, some 270 groups hold exhibitions here. Visitors can enjoy encounters with new works by art groups and school education institutions, presented under a wide range of topics.

公募展示室の隠れた主役 — 公募展示室の有孔壁面について

Pegboard walls—a key component of the Citizen's Galleries



有孔ボードに上部フックを引っ掛ける様子

Scene of hanging a painting on hooks in the pegboard

東京都美術館の公募展示室は、固定壁の間仕切りがある典型的なホワイトキューブです。しかし、よく見ると、その壁面には無数の「穴」が空いています。実は、この壁面の穴は、公募展示室での展示になくてはならない存在なのですが、何のために使用されるのかご存じでしょうか。

東京都美術館の公募棟には12の展示室があり、1室あたりの面積は約760㎡、天井高4.8m、壁長は可動壁を含み約275mあり、各展示室には、幅6.2mの可動壁が8枚設置されています。そして、その壁面は、固定壁・可動壁ともに、全面有孔ボードで作られています。



完成した展覧会場（「第99回 朱葉会展」一般社団法人朱葉会）

The completed exhibition venue (“Shuyoukai Exhibition” Shuyoukai Art Association)

2012年に館がリニューアルオープンした際、それまで5cmだった孔どうしの間隔を10cmに変更しました。一つの孔の径はおよそ8mmあります。壁面の材は、耐火性・耐水性のある多機能ケイ酸カルシウム板を使用しています。

有孔ボードの利点は、額装や軸装作品の設置が容易なことです。「上部フック」や「受け台」といった当館指定の備品を有孔ボードの穴に引っ掛けることにより、ビス止めやワイヤーでの固定を必要とせずに、作品はまるで壁に浮いているかのように設置できます。そして、その容易さが、年間40会期、およそ270もの公募団体展や学校教

育展において、短時間での陳列や原状回復を可能にしています。「上部フック」は作品を吊るすために、「受け台」は作品を下から支えるために、縁の下の力持ちとして、重要な役割を果たしています。

東京都美術館では、作品発表や鑑賞を楽しむ場所として多くの方々に公募展示室を利用いただいています。作品をより良く展示するために、各団体は壁面の利用にいろいろと工夫をこらしています。公募団体展や学校教育展が、どのように壁面を活用しているか、作品の鑑賞と合わせて見ていただくのも、展示を楽しむ一つのポイントかもしれません。（東京都美術館 学芸員 柴田友里子）

The twelve Citizen's Galleries at the Tokyo Metropolitan Art Museum all have countless holes in their walls. Can you imagine what the holes are for?

The walls of each gallery are entirely surfaced with pegboard. The pegboard is composed of multifunctional calcium silicate water-resistant and fire-resistant boards. Pegboard allows easy installation of framed artworks and scrolls.

By inserting hooks and other museum-designated hangers in the pegboard holes, works can be installed

as if suspended on the wall without need for fixing them using screws or wire. The ease and convenience of this method enables art groups to both install and take down artworks in a short time for the some 270 group exhibitions and school education exhibitions held during 40 periods per year. Along with viewing the artworks, seeing how each group displays them on the walls for maximum effect is also part of the fun of seeing the exhibition.

(SHIBATA Yuriko, Assistant Curator)

美術情報室は、図書・図録・雑誌などを閲覧できるライブラリー。
 アーカイブズでは、館の歩みに関する資料を収集・整理・保存・公開しています。
 A library open for perusal of reference books, catalogues, and magazines.
 The Archives collect, preserve, and display materials documenting the museum's progress.

2021年度 アーカイブズ資料展示 東京都美術館と佐藤記念室

Archives Exhibition 2021 "Tokyo Metropolitan Art Museum and Sato Memorial Gallery"

東京都美術館では毎年、当館所蔵のアーカイブズ資料展示を行っています。今年度は、6月8日から7月4日にかけて、旧館に設置されていた「佐藤記念室」をテーマに展示を行いました。

東京都美術館の創立に寄与した佐藤慶太郎の名を冠した「佐藤記念室」は、美術作品や複製画の展示、講演会やデッサン会、美術図書の陳列などを行う目的で1953年に開設しました。1960年代以降は所蔵作品の常設展示室として活用され、美術団体の発表の場として歩みを重ねてきた東京都美術館に、新たな主体的機能を与える役割をも果たしました。

展示では、佐藤記念室新設工事図面や同室で開催された展覧会の会場風景写真、展覧会の目録、実際に使われていた看板などの資料を紹介し、佐藤記念室の歩みとその活動を振り返りました。また、1964年10月の東京オリンピック開催時に佐藤記念室で開催されていた所蔵品展「秀作日本画・油絵展」の目録と出品作品の画像を展示し、当時の活動を回顧しました。(東京都美術館 学芸員 小林明子)



ポスター Poster

The Tokyo Metropolitan Art Museum annually holds an exhibition of its archives. This year's exhibition, held from June 8 to July 4, recalled the "Sato Memorial Gallery" established in the original museum building.

Dedicated to the museum's founder, SATO Keitaro, the "Sato Memorial Gallery" opened in 1953 as a venue for educational dissemination activities such as lectures, drawing classes, and art book displays in addition to exhibits of artworks and reproductions. From the 1960s on, it primarily served as a permanent exhibition gallery due to the museum's growing artwork collection. In this role it gave the Tokyo Metropolitan Art Museum—long a venue for exhibitions organized by art groups—an exhibit function of its own. This year's archive exhibition displayed construction drawings for Sato Memorial Gallery along with photo views of exhibitions held in the gallery, exhibition catalogues, and an actual exhibition signboard, and traced the gallery's history and activities. It also displayed the catalogue and reproduced artwork images related to "Masterpieces of Japanese Painting and Oil Painting," a collection exhibition held in the Sato Memorial Gallery in October 1964 during the Tokyo Olympic Games, and recalled the gallery's activities at that time. (KOBAYASHI Akiko, Associate Curator)



展示風景 Exhibition installation view

TOPICS

Public relations
magazines and SDGs
広報誌とSDGs

広報誌等にFSC認証紙を採用しています

FSC-certified paper used in Museum publications

ガイド・リーフレット「ご案内／展覧会」と広報誌「東京都美術館ニュース」。館内ロビー階のチラシラックや、中央棟1階の佐藤慶太郎記念 アートラウンジにて配布しています

"MUSEUM GUIDE" and "Tokyo Metropolitan Art Museum News" are available on leaflet racks in the lobby and Sato Memorial Lounge (Central Wing 1F)



最近、耳にする機会が増えてきた「SDGs」をご存じですか？

「SDGs」は「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、読み方はエスディー・ジーズです。2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す目標のことで、「誰ひとり取り残さない(leave no one behind)」ことを原則に、福祉や環境などの17の目標と169のターゲット(目標ごとの解決課題)が設定されています。

SDGs達成に向けた取り組みを推進するため、東京都美術館では定期刊行広報誌にFSC認証を受けた紙を採用しています。国際的な制度のFSC認証は、適切な森林の管理により持続可能な森林の活用や保全を目的とし、SDGsの目標15「陸の豊かさを守ろう」の森林の生態系や絶滅危惧種の保護、森林の拡大などにも貢献しています。

広報誌を通じてSDGsを広く伝えることも重要な役割の一つと考えています。広報誌「東京都美術館ニュース」や、館の概要・展覧会スケジ

ュール等を紹介するガイド・リーフレット「ご案内／展覧会」には、森林の木をモチーフにしたロゴマーク(FSC認証マーク)が付いています。ご来館の際は、お手に取り、最後のページに掲載されたマークにもご注目ください。

(東京都美術館 広報担当 進藤美恵子)

SDGs—a term we often hear these days. SDGs ("Sustainable Development Goals") are goals for achieving a sustainable and better world by 2030, adopted at the UN Sustainable Development Summit held in 2015. Based on the core principle, "leave no one behind," 17 goals and 169 targets are set forth. To support progress in achieving the SDGs, Tokyo Metropolitan Art Museum uses FSC-certified paper to publish its regularly issued public relations magazines. FSC certification is aimed at achieving sustainable use and conservation of forests through responsible management of the world's forests. Goal 15 of the SDGs, "Life on Land," focuses on protecting forest ecosystems and endangered species, and supporting reforestation. Broadly communicating the SDGs is an important function of the public relations magazine, we believe. Publications such as "Tokyo Metropolitan Art Museum News" and "MUSEUM GUIDE" bear the FSC certification logo with its forest tree motif. Be sure to notice the logo on the back page of these publications during your next museum visit. (SHINDO Mieko, Officer for Public Relations)



東京都美術館
ニュース



ご案内/
展覧会



博物館事業への功績により表彰
(2020年全国博物館大会)
Awarded for achievements in the
museum field (2020)

東京都美術館とともに

——館長退任にあたり

The Museum Director looks back as retirement nears



東京都美術館 館長
真室佳武

略歴／1937年香川県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科中退。フランス政府給費留学(パリ大学)、東京藝術大学非常勤講師などを経て1976年群馬県立近代美術館学芸課長。1986年東京都美術館事業課長、1994年副館長、1995年館長、2006年より鎌倉市鐮木清方記念美術館館長を兼務。専攻は、ビザンチン美術、中世フランス美術、日本近・現代美術。

東京都美術館は、新型コロナウイルスの影響により、昨年来、展覧会の中止や延期、ひいては休館を余儀なくされるなど厳しい状況に見舞われましたが、現在は来館者の皆さまにもご協力いただきながら、感染拡大防止のさまざまな方策を講じ、展覧会をはじめ各種事業に取り組んでいます。私は9月末をもって館長職を辞し、35年間にわたる都美術館での勤務を終えますが、美術館の今後の展望への示唆を得るためにも、これまで美術館とともに歩んできた道のりを少し振り返ってみることにします。

1986年7月、群馬県立近代美術館から都美術館の事業課長に着任しました。歴史と文化・芸術の一大拠点でもある上野公園は、学生時代から慣れ親しんでいた土地でした。11年間に及ぶ高崎での学芸員の経験はあったものの、新天地の美術館ではまた新たな局面も多く、大いに刺激を受けることになりました。当時の都美術館は、学芸員によって調査研究、作品

収集、保存、企画展示等の事業を展開し、さまざまな活動が活発に展開されていました。才気煥発な学芸員たちと切磋琢磨し、時には学芸会議で大いに議論しましたし、ちょうど戦後の現代美術を中心に調査、展示、作品購入を進めていた時期でもあり、浜田知明さん、伊藤公象さんなど多くの作家の方々とつながりを持ったことも楽しい思い出です。また、公募展は美術館の大きな柱でしたので、公募団体や所属作家のことなどについて知ることが多く、日本の近・現代美術への理解を深めることになりました。1988年には新しい都立美術館の建設に向けた海外美術館調査団のヨーロッパ班の一員として派遣されましたが、それが今の東京都現代美術館に繋がっています。

初の専門職館長となった1995年、約3,000点の収蔵作品、美術図書資料、学芸機能が江東区の本場公園に開館した東京都現代美術館に移管され、都美術館は新聞社などマスコミとの共催展と公募展を開催する展示施設となりました。共催展では国内外の名品展を開催し、より良い作品を紹介して、多くの方に美術の素晴らしさや魅力を伝えるよう努めてきました。1998年の「テート・ギャラリー展」ではイギリスに赴いて現地の学芸員とともに出品作品の選定を行う中で、自国の作家を大事にするイギリス人の思いに触れ、ビザンツ帝国部門の監修を務めた2003年の「トルコ三大文明展」では、少ない予算の中で何とかして名品を展示できるよう大変厳しい交渉を行ったことなどが印象に残っています。

2年間の大規模改修を経て2012年にリニューアルオープンした際に、「アートへの入口」として「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」と出会う場とし、「心のゆたかさの拠り所」を目指すという新たなミッションを掲げました。リニューアルを機に新たな事業を開始しましたが、中でもアート・コミュニケ

ーション事業は特筆されます。人と人、人と作品、人と場所をつなぐさまざまな回路を設けて、互いに理解を深め、新たな可能性を見出すとするもので、内容的にも手法的にも全く新しい美術館活動です。多彩なプログラムを実施して大きな成果を上げ、今や全国各地の美術館に広がる取り組みとなっています。

2026年には開館100周年を迎えます。もともと都美術館は1926年に佐藤慶太郎という一人の実業家の寄付からスタートした館です。佐藤は「公私一如」の精神のもと、社会貢献に尽くし、美と幸福な生活とを結びつけることを目指しました。都美術館はその精神を継承しつつ、これまでの経験と実績を踏まえ、次世代に向けて時代に相応しい新たな展望を切り開いていかなければなりません。そしてその可能性は十分にあり、これからの都美術館に大いに期待したいと思います。

In late September, I will retire as museum director and bring my 35 years at Tokyo Metropolitan Art Museum to a close. It was July 1986 when I launched my career at this museum. Since that time, I have enjoyed friendly rivalries and sometimes passionate debates with brilliant curators and made the acquaintance of numerous artists. In 1995, when I was named museum director, some 3,000 of this museum's collected artworks were relocated to the Museum of Contemporary Art Tokyo. My energies thereafter shifted to exhibiting high-quality artworks from Japan and overseas and broadly introducing people to the excellence and fascination of art. I have strong memories of working closely with foreign museum's curators to select artworks to exhibit, and engaging in harsh negotiations to somehow secure famed works on a limited budget.

From 2012, the Tokyo Metropolitan Art Museum embarked on initiatives to become "a Doorway to Art." The Art Communication initiative particularly deserves mention, for it involved the deployment of art museum activities entirely new in content and approach. Currently, our Art Communication undertaking is spreading to art museums in regions across Japan. Hereafter, in 2026, the Tokyo Metropolitan Art Museum will mark its centennial. I hold great hopes for the Museum's future.

MAMURO Yoshitake
Director Tokyo Metropolitan Art Museum

*『「美の殿堂」から「アートへの入口」へ——東京都美術館館長・真室佳武によるオーラル・ヒストリー』（「東京都美術館紀要 No.27」P39-51）もあわせてお読みください
https://www.tobikan.jp/media/pdf/2021/archives_bulletin_2020.pdf

東京の北の玄関口であるJR上野駅は1883(明治16)年に開業しました。1885(明治18)年に建てられた煉瓦造りの初代駅舎は関東大震災で全焼し、1932(昭和7)年に2代目として現在の駅舎が竣工。昭和レトロを感じさせる趣のある装飾が建物のあちこちに施され、構内では猪熊弦一郎の壁画《自由》、朝倉文夫の彫刻《翼の像》、《三相 智情意》、平山郁夫原画のステンドグラス《昭和六十年春 ふる里・日本の華》などの作品を鑑賞することができます。また、モダンでかつ風格のある駅舎は、開業当時から現在まで数多くの作品に描かれてきました。

東京都美術館で今秋開催する「東京都コレクションでたどる〈上野〉の記録と記憶」(会期: 11月17日~2022年1月6日)では、上野駅を始め、幕末以降の絵画、版画、写真、映像などに登場するさまざまな上野の風景をご紹介します。

(東京都美術館 広報担当係長 山崎真理子)



JR上野駅 JR Ueno Station

JR Ueno Station, Tokyo's northern gateway, opened in 1883. The original station building burned down in the Great Kanto Earthquake disaster, and the second station building, currently in use, was completed in 1932. The architecture features elegant decorations throughout, and many artworks can be seen in and around the building.

The "Tokyo Metropolitan Collection Exhibition—Records and Memories of Ueno" scheduled for autumn (November 17 to January 6, 2022) at Tokyo Metropolitan Art Museum will showcase various Ueno landscapes appearing in paintings, prints, photographs, and films.

(YAMAZAKI Mariko, Chief of Public Relations)

東京都美術館 ニュース No.468

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS

発行日 2021年9月30日
発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
企画・編集 東京都美術館 広報担当
デザイン 株式会社ファントムグラフィックス
翻訳 アムスタッツ コミュニケーションズ
印刷 望月印刷株式会社

©Tokyo Metropolitan Art Museum

東京都美術館
〒110-0007
東京都台東区上野公園8-36
Tel 03-3823-6921
Fax 03-3823-6920

公式サイト
<https://www.tobikan.jp>

Twitter
tobikan_jp
tobikan_en

Facebook
TokyoMetropolitanArtMuseum

表紙の 写真

フィンセント・ファン・ゴッホ《夜のプロヴァンスの田舎道》(部分)
1890年5月12-15日頃 油彩、カンヴァス
クレーラー=ミュラー美術館

Vincent van Gogh, *Country Road in Provence by Night* (detail),
c. 12-15 May 1890, Oil on canvas, Kröller-Müller Museum
© Kröller-Müller Museum, Otterlo, The Netherlands

